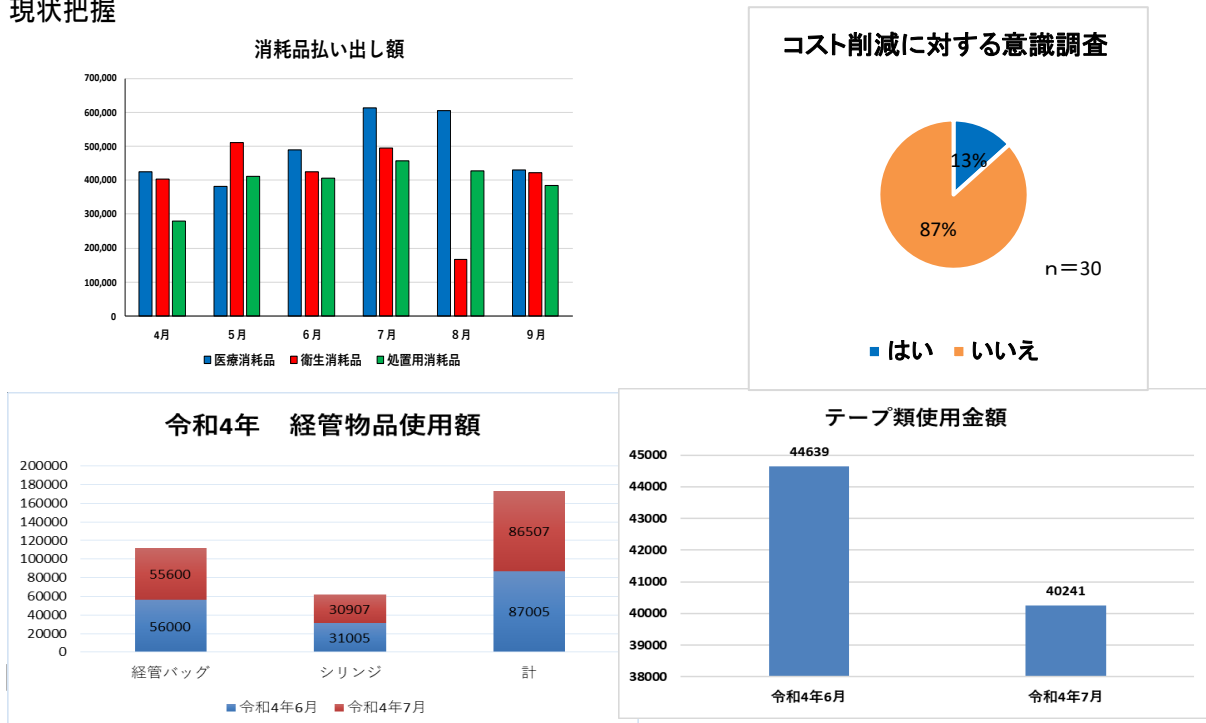


演題名	病棟業務における医療消耗品の見直し		
施設名	いわき湯本病院	(ふりがな) 発表者(職種)	あべ みく 阿部 未来 (作業療法士)
(ふりがな) チーム名	わ ぎょうむ いっぺん むだ 我が業務に一片の無駄なし		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
取り組み種別	問題解決型		
改善しようとした 問題課題	当院における医療消耗品費、一般消耗品費、衛生費を確認した所、価格高騰の影響を大きく受けていることが分かった。コロナウイルスの流行による病棟閉鎖などにより、衛生費は月毎に変動が大きく管理が難しいため、医療消耗品にターゲットを絞った。医療消耗品の中でコストがかかる物品を調べた所、経管栄養に関わる物品と、処置に関わる物品の割合が高いことが判明。これらのコスト削減をすることを目標にTQM活動を実施した。		
改善の指標と その目標値	(指 標) 病棟業務における経管バッグ・シリンジ・処置用テープ類の使用金額を削減する。比較時期は令和4年6～7月と令和5年7～8月とする。比較理由は、平均患者数が同水準である連続した2カ月間であり、かつ経管栄養を必要とする患者が平均14人と同水準であること。 (目標値) 上記期間における昨年度と今年度の使用金額を比較し、50%削減を目標とする。令和5年11月までに標準化する。		
実施した対策	①経管バッグ・シリンジの比較:内容量1200mlを、500mlに変更。シリンジも、より安価なものへ変更。 ②テープ関係の比較:サイズを統一して使用するように変更。 ③選定の為のサンプル:サンプルを取り寄せ、病棟スタッフが使用感を確認。1～2週間のサンプル期間を通じ、問題なければ使用開始とした。 ④コスト削減の啓蒙:院内にコスト削減のポスターを掲示。 ⑤事務部門による使用金額管理表を改善。		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前)経管物品・テープ類に関して、258392円の使用金額が発生していた。 (実施後)上記内容を52809円まで使用金額を削減。80%のコスト削減に至る。対策実施後のアンケート調査から、コスト削減の意識が大幅に改善し、業務内容にも大きな変化は見られなかった。また、医療消耗品に限らず、一般消耗品の取り扱いについても意識の変化が見られた。		
歯止めと 標準化	①経管バッグ・シリンジ・テープ類の取り扱いに関するマニュアルを更新し、新しく入職するスタッフもスムーズに業務が出来るようにした。 ②事務部門による払い出し管理表を継続して利用することにした。 ③病棟在庫が過剰になりすぎないように、必要最小限のストックをするように調整した。		
活動の種類 ※複数選択可	④組織全体で取り組んだ活動	チーム メンバー (職種)	1 小野 雄太郎 理学療法士 2 阿部 未来 作業療法士 3 石野 睦美 事務 4 星 剛貴 事務 5 渡部 糸子 看護師 6 薄井 智美 看護師 7 池川 彩 看護師 8 大淵 靖世 看護師 9 疋田 俊江 看護師 10 小針 正人 医師
活動の場 ※複数選択可	①診療部門 ②支援部門 ③管理部門		
活動期間	令和5年4月 ～ 11月		
リーダー名 (職種)	小野 雄太郎 (理学療法士)		
活動回数	5		回

現状把握



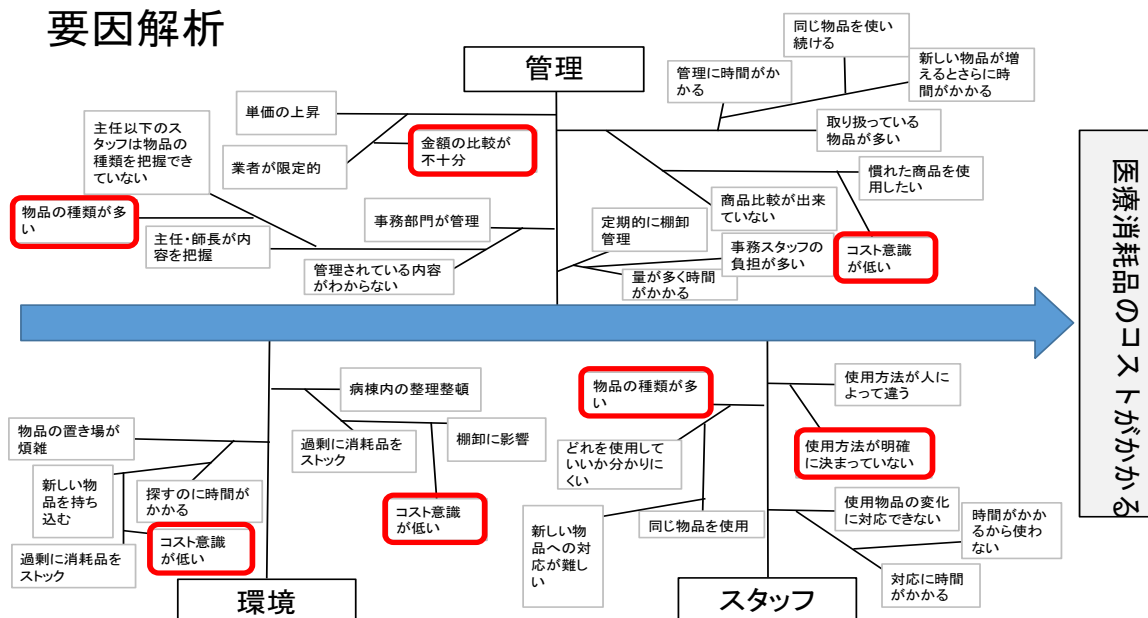
目標設定

何を	病棟業務における経管バック・シリンジ・処置用テープ類の使用金額の削減と標準化を
いつまでに	令和5年11月までに
どうする	昨年度の6～7月と今年度の7～8月とを比較して、50%のコストダウンをする

【比較理由】

平均患者数が同水準である連続した2カ月間であり、かつ経管栄養を必要とする患者が平均14人と同水準であること。

要因解析



【対策の立案】

系統図＋マトリックス図：医療消耗品のコストを削減するために

◎＝5点 ○＝3点 △＝1点 17点以上を実施

基本目的	要因・目的	対策	具体案	効果性	実現性	重要性	持続性	協力性	評価
医療消耗品のコスト削減のために	物品の種類が多い	類似品の洗い出し	経管バッグの比較	◎	◎	◎	◎	◎	25
		使用方法の確認	テープ類の比較	◎	◎	◎	◎	◎	25
	金額の比較が不十分	業者の見直し	選定の為のサンプル	◎	◎	◎	○	○	23
		単価の確認	業者毎の価格帯比較	◎	◎	◎	◎	◎	25
	使用方法が明確に決まっていない	マニュアル作成	誰でもわかるマニュアルを作る	○	○	○	○	○	15
		使用方法の共有	部内勉強会の実施	○	○	○	○	○	15
			保管庫からの持ち出し方法の統一	○	○	○	○	○	15
	コスト意識が低い	院内掲示	誰でも見る場所へ掲示	○	◎	○	◎	○	19
		勉強会の開催	イブニングセミナーの実施	○	○	○	○	○	15

【対策の実施】

① 経管バッグの比較

対策実施② シリンジ関係



	変更前価格	変更後単価
シリンジA 50ml	73円	58.5円
シリンジB 50ml	93.6円	91.2円
シリンジC 30ml	80.4円	43.4円
シリンジD 20ml	73.2円	29.4円

安価な物品に変更

③ テープ類関係

④ 選定の為のサンプル

【変更前】

粘着包帯
5cm × 7m 990円
10cm × 10m 490円
15cm × 5m 300円

【変更後】

粘着包帯
10cm × 10m 490円
フィルムドレッシング
10cm × 10m 2650円
10cm × 20m 2625円

種類を限定

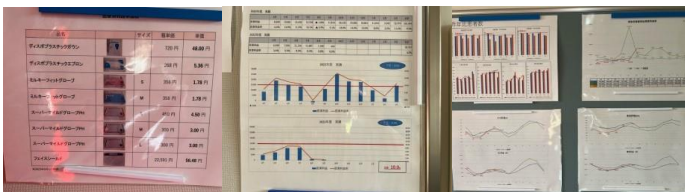
事務部門による業者の選定を行い、経管バッグのサイズが変更できるか調査

病棟看護師による使用感の確認

1～2週間のサンプル期間を通し、業務に問題がないことを確認してから正式導入を実施



⑤ コスト削減の啓蒙



- ・院内に医療消耗品の写真と単価を掲示
- ・光熱費などの月別データなども併せて掲示することで、コストを意識できるように工夫
- ・掲示場所は、スタッフ全員が見れるようにタイムカードの上に掲示

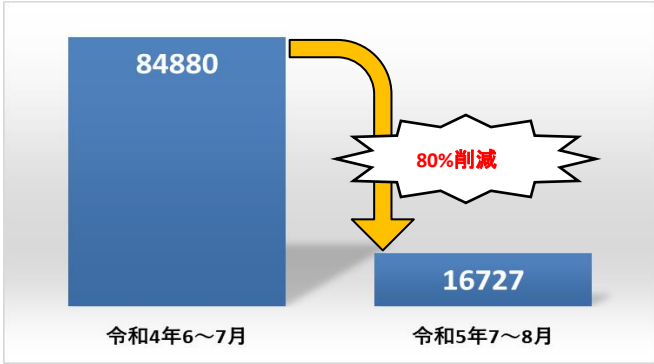
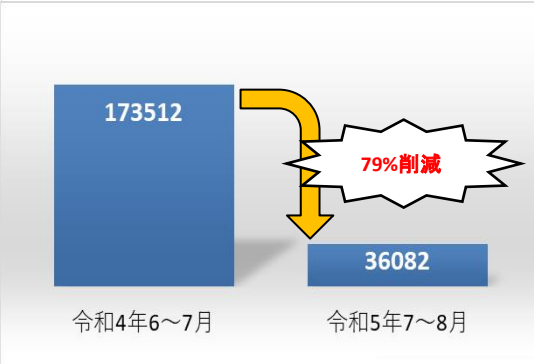
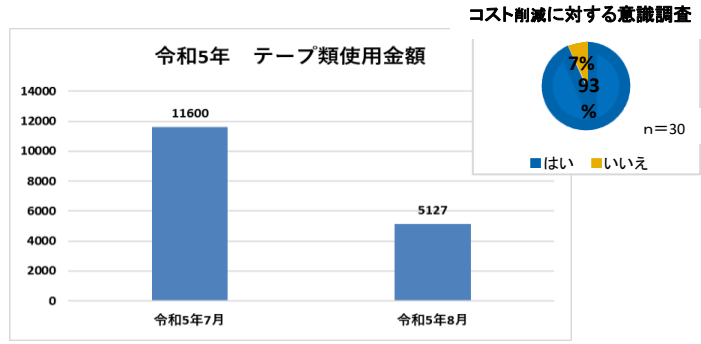
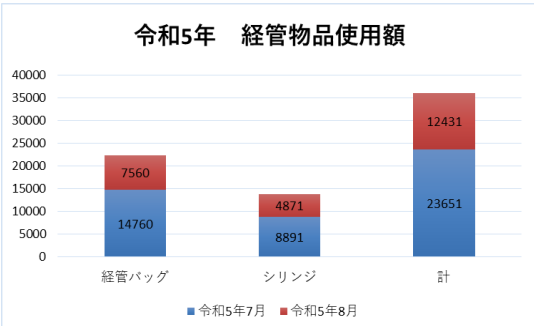
⑥ 事務部門による使用金額管理表を改善

【昨年度】
全体数の把握のみ

【今年度】
各部署毎の払い出し量と使用量を細かく確認できるように、Excelシートの改善を実施

VALUE	外来	訪問看護	1階病棟	2階病棟	3階病棟		
A 払出分	22,126	1,245	132,831	140,671	157,531	431,033	
B 払出分	505,286	0	126,256	124,060	135,421	385,738	
C 払出分	25,278	0	180,504	127,222	114,816	422,542	
払出以外	184,043	6,693	2,405	12,083	24,269	38,757	
	736,732	7,938	441,996	404,036	432,037	1,278,070	
	0	0	0	0	0		
	736,732	7,938	441,996	404,036	432,037		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
外来	1,067,871	806,156	421,391	539,709	300,802	736,732	3,872,661
訪問看護	12,880	4,311	12,571	6,061	7,020	7,938	50,779
1階病棟	448,852	483,658	384,420	494,551	344,331	441,996	2,597,609
2階病棟	253,214	395,785	482,900	521,115	395,351	404,036	2,452,401
3階病棟	406,849	422,515	452,718	548,409	502,539	432,037	2,765,067
	2,189,666	2,112,225	1,753,999	2,109,845	1,550,042	2,022,740	11,738,517

【効果の確認】



【標準化と管理の定着】

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする	チェック
標準化	医療消耗品の定期的な見直しを	コスト削減をするために	事務部門が	毎月1回	物品倉庫で	棚卸を行う	事務部門
管理	医療消耗品の在庫確認を	余分に購入しないように	事務部門が	毎月	事務室パソコンで	管理する	事務部門
教育	医療消耗品の使用方法を	スタッフ全員が同じように使用できるように	師長・主任が	適時	各病棟で	指導を行う	師長・主任

【反省と今後の展望】

ステップ	良かった点	悪かった点
テーマ選定	経費削減に目を向けることができた	選定に時間がかかってしまった
現状把握	医療消耗品に絞ることで、問題が明確になった	アンケート調査が足りなかった
要因分析	細かく分析することができた	QC手法の理解不足が見られた
対策立案	3次対策まで検討することで行うことを明確にできた	
対策実施	事務部門・看護部が主体となり取り組むことができた	活動部門の偏りが見られた
効果の確認	各スタッフがコストを意識して業務に向き合うようになった	アンケート調査が足りなかった
標準化と管理の定着	継続しやすい内容にすることができた	-

今後も価格上昇により、医療消耗品・一般消耗品の費用が高くなることが予測される。今回の取り組みを活かし、定期的な物品の見直しを継続する。